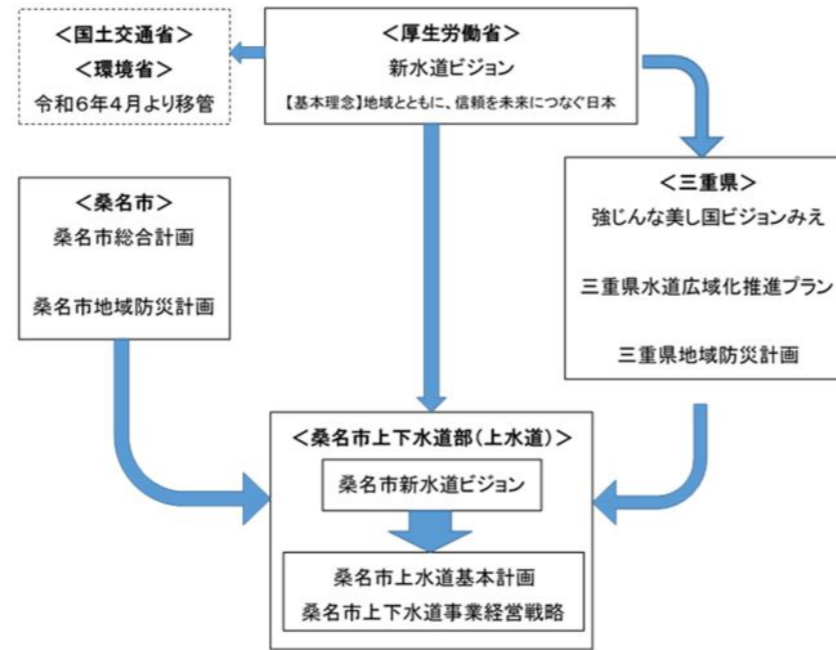


桑名市新水道ビジョン（令和6年度から令和15年度について）

1. 水道ビジョンの目的と位置づけ

本市においては「桑名市新水道ビジョン」を平成26年3月に策定し、「桑名市上水道基本計画」を平成30年3月に見直し、桑名市上水道事業の将来目標の設定と実現するために必要な具体的施策と方向性を示しました。「桑名市新水道ビジョン」策定後10年の期間の中で、令和元年10月には改正水道法が施行され、国、都道府県、水道事業者の責務が明確化された。水道事業者については、適切な資産管理の推進などに取り組むことが求められています。また、令和6年4月に所管官庁も厚生労働省から国土交通省及び環境省に移管される等、水道事業を取り巻く環境も大きく変化しています。



桑名市新水道ビジョンの位置づけ

2. 水道事業の課題

○厚生労働省「新水道ビジョン」より「持続」「安全」「強靱」に従い、問題点及び課題を抽出しました。

分類	問題点	課題
1. 持続	1-1 人口減少に伴い有収水量が減少し、給水収益が減収	・経費削減、民間活力を活かした業務の効率化 ・水道料金及び資産管理の適正化
	1-2 更新費用の増大	・集約化やダウンサイズによる更新費用の抑制 ・ 広域化等の検討 追加事項
	1-3 有収率の低下	・漏水の解消
	1-4 施設及び管路の経年化が進行	・施設規模の適正化を含む計画的な更新 ・長寿命化対策
	1-5 職員の技術力、組織力の低下	・技術基盤の確保及び災害対応時の体制強化 ・ITによる事務効率化
	1-6 経営の健全度が低下	・料金体系の検討継続 ・ 市の推進する企業誘致と連携した収入減の抑制 ・DXによる業務効率化 ・SDGsの推進 追加事項

分類	問題点	課題
2. 安全	2-1 原水の水質変化	・水源水質の変動の影響を受けにくい取水方法の検討 ・水源環境の保全 追加事項
	2-2 水質管理への要求が高度化	・適切な浄水処理方法の選定 ・適正な水質管理による信頼性向上 ・水安全計画の適切な更新策定 ・小規模貯水槽の水質管理
	2-3 鉛製給水管の残存	・鉛製給水管解消の促進
3. 強靱	3-1 水道施設の耐震性能不足	・浄水施設及び配水池の耐震化率向上 ・管路耐震化率の向上
	3-2 水道施設の浸水リスクの増大	・浸水対策の検討実施
	3-3 大地震時における断水発生	・緊急貯水槽の増設 ・ 応急給水拠点の検討 追加事項
	3-4 バックアップ体制の強化	・基幹管路2系統化の検討 ・施設ネットワーク化の検討 ・広域的な視点による相互応援のネットワーク化の推進

*重要給水施設管路：災害時に重要な拠点となる病院、診療所、避難所などへ給水する管路

3. 将来の事業環境

(1) 更新費用の増大

今後、水道施設の老朽化による更新費用の増大が見込まれており、更新費用の抑制に加え、施設の集約化に有効な広域化の検討も必要となる。

(2) 経営健全度の低下

令和15年度の給水人口は令和4年度実績より1.4%減の13.7万人を予想しているため、有収水量は減少し給水収益も減少する。経営の健全度を維持するには、効率化及び、料金体系の検討を含め、収入減の抑制は必要となる。

(3) 水質管理への要求が高度化

浄水施設の更新時期に併せて、基盤強化を図りつつ、浄水処理過程を安定的に将来必要とされる水質に対応可能な浄水処理方法を採用していくことが必要となる。

(4) 大地震時における断水発生

大地震時における断水発生時に給水活動負担低減のため、管路被害が最小限の路線でかつ、地区別人口が多い地区などに応急給水拠点を設置可能かどうか検討が必要となる。

4. 推進する実現方策

(1) 広域化及び官民連携等による効率化

「三重県水道広域化推進プラン」による「三重県水道事業基盤強化協議会」の一員として参加します。また、経営の効率化とサービス維持を図るため、民間業務委託の拡大やウォーター-PPP、官民連携の可能性についても検討します。

(2) 経営健全度の維持

経費削減など経営努力を継続して、給水サービスの維持と料金水準の適正化に努めます。経営健全度を維持するために効率化を含め、市の推進する企業誘致と連携し、給水余力の活用にも努めます。また、DXによる作業効率や情報発信力向上に努め、持続可能な社会を築くためにSDGsの目標へ推進します。

(3) 再投資額の低減

既存資産は適切な時期に更新を行い、機能維持を図る必要があり、その再投資額を施設システムの合理化や統廃合により低減する取り組みを行っていきます。

(4) 施設規模の適正化と統廃合による合理化

規模・容量の適正化を図り、更新コストの無駄を省くとともに、拡張により時系列的に整備された施設の統廃合を検討し、より合理的な施設形態に改善するよう努めます。また、連絡管などにより水運用のバックアップ機能を高めます。

(5) 浄水場の更新と浄水処理の高度化

近年の地球温暖化による気候変動や水源周辺環境の変化、また基準の強化にも対応するため、現状の浄水処理方式が適切か評価し、浄水場施設の老朽化に伴う更新時期に併せて、事業環境や維持管理体制も考慮した適切な浄水処理方式を検討し選定します。

(6) 水道施設及び管路の耐震化

更新対象施設を抽出し耐震化を計画的に実施します。特に管路については、*重要給水施設管路を優先して更新しています。管路の耐震化状況に応じ、応急給水拠点設置位置を検討していきます。

追加事項

追加事項